

令和5年度

第1回苫小牧市特別職議員報酬等審議会会議録

日時：令和6年1月23日（火）午後1時30分

場所：苫小牧市役所9階第2委員会室

苫小牧市特別職議員報酬等審議会議事録

日時：令和6年1月23日（火）13：25～14：30

場所：苫小牧市役所9階第2委員会室

○開会

定刻より若干早いですが、出席予定者が揃ったため開会する。厚生主幹が進行役となり、審議会次第のとおり進行する。

1 委嘱状交付

委員改選後、最初の審議会となるため、市長職務代理者の木村副市長より委嘱状が交付された。

2 市長職務代理者挨拶

開会にあたり、市長職務代理者の木村副市長から挨拶を行った。

3 委員・事務局紹介

各委員、事務局から自己紹介を行った。

4 会長・会長代理選出

会長には、北條康夫委員、会長代理には、山端豊城委員が選出された。

5 諮問書交付

市長職務代理者の木村副市長から北條会長に対し、諮問書が交付された。

6 審議

諮問事項である市長等の給料額及び議会の議員の議員報酬額について審議し、概ね改定する方向での一致を見たことから次回の委員会で具体的な改定額の議論を行うこととした。

【主な発言等】

会長	<p>審議会次第に従い、審議を進める。</p> <p>市長等の給料額及び議会の議員の議員報酬額の現状並びに政務活動費の執行状況について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>配布した資料に基づき、事務局から説明がなされた。</p>
会長	<p>ただいま事務局から説明があったが、意見・質問を承っていききたい。</p>
委員	<p>人口、予算などのランキングが掲載されているが、4位に相応しい処遇をしないといけないというのは安易ではないか。</p> <p>札幌と比較した場合、市税収入は10%に満たないのに、議員の数は約4割を占める。立法府改革というところをしっかりと詰めた上で処遇改善なりの議論を進めるべきではないか。</p>
事務局	<p>定数については、現在議会改革検討会で検討している最中である。検討会では、人口規模に言及するものも含めて様々な意見が出ており、今後更に協議を進めていく状況である。</p>
委員	<p>税収に見合うよう考慮していただきたいと思う。</p>
事務局	<p>条例に審議会の審議事項が書いてあり、議員の定数については、この場で審議するものではないが、意見としては何う。</p>
委員	<p>札幌との比較というのは色々な意味で比べようがないところもあるので、全道全体など比較しないとならないと思う。昔、議会費を上げると他の政策に負担が掛かるので議員を減らしたようなことを聞いたことはあるが、負担という意味ではどうか。</p>
事務局	<p>一般会計に対する議員報酬は0.27%程度で、過去5年間、概ね変わっていない。</p>
委員	<p>私としては、30年間改定されてないことから物価高や賃上げということも考慮して、議員の生活を安定させる上でも改定していくべきと思う。</p>

委員	<p>30年間改定がないというのはあり得ないのではないかと考える。すごく頑張っている議員を見ていることもあり、ぜひ上げていただき、市民の見本となるような活動を希望する。</p>
事務局	<p>この30年の間で一般職の給料は下がっている時代もあったが、実はその時も改定していない。その上で、今の議員の候補者が少ないとか物価上昇といった情勢を踏まえて今回改定すべきか考えていただきたい。</p>
委員	<p>議員の報酬は、1か月当たりで見ると少ないと感じる。近いところの人口で帯広と比較すると、若干少ないという状況。これから市議会議員になりたいという人たちに少し夢を持っていただくためには、上げていただいた方がよろしいのではないかと。</p>
委員	<p>基本的には私も賛成。確認だが、道内の他の自治体は人口減となっているところも多いと思うが、報酬額は下がってないという認識でよいか。また、議員は上げてほしいという考え方で、市長等は上げるのではなく、現状維持がよいということかと認識している</p>
事務局	<p>道内他市の報酬の改定状況については、本来の額は下げずに独自削減という時限的な形で下げてきた経緯がある。</p> <p>上げる動きについて道内の主要都市では、旭川市で来年度4月から議員報酬を月額5千円引き上げる判断がなされたが、他の主要都市においては、今は目立った改定の動きはない。</p>
事務局	<p>報酬の引上げの要望については、議会改革検討会で協議されている。議員活動に専念できる環境確保、議員を志す優秀な人材確保のために議員報酬の見直しが必要ではないかという結論が出され、全会一致で今回要望書を市長へ提出している。</p>
事務局	<p>市長が給料の引上げを望んでいるかということについては、本審議会において引上げの判断がなされた場合でも、市長が今の状況で自分の給料を上げるべきではないと判断した場合は、条例提案を行わない可能性はある。</p>
会長	<p>市長の思いは別として、本審議会としての方向性を出していかないといけない。今は概ね少し上げて良いのではないかとのお話があるが。</p>

委員	<p>議員や市長に関しては、倒れても仕方ないくらい忙しくしているのを見ていて、申し訳ない気持ちになる。そして、議員には議員年金もなく、副業をするのも大変なので、現在の報酬で子育てや生活となると、ちょっと考えなければならないと思う。</p>
事務局	<p>現在把握しているのは、議員 28 名中、専業で議員活動を行っているのは 18 名で、残りは兼業で行っている。40 歳から 60 歳までで配偶者 1 人、子 1 人というモデルでは社会保障費が月額約 12 万 7 千円となり、そのほかにも地域の活動等への支出もあり、実際の生活費はかなり厳しいと伺っている。</p>
委員	<p>失われた 30 年が続き、給与改善が行われつつあるのも民間の大企業の正規雇用者のみで、非正規雇用者や中小企業の労働者には全く恩恵が行き渡っていない。議員だけが 30 年間待っている訳ではない。</p> <p>また、議員は立候補してなっている訳なので、ボランティア精神が必要とも考えるべきではないか。</p>
会長	<p>各委員から意見を伺ったが、多くは引上げて良いのではないかとという方向と感じた。事務局から、具体的な金額を決めるための参考資料はあるか。</p>
事務局	<p>参考資料を各委員に配布し、改定状況の推移や過去の改定理由等について説明がなされた。</p> <p>また、具体的な改定額の案としてプラン A からプラン D が示され、これらについて説明がなされた。</p>
会長	<p>本審議会の答申は 30 年ぶりの改定の必要性ということでの議論なので、十分に検討し、慎重に判断する必要があるので、第 2 回の審議会を設けたいと思うが、いかがか。</p>
委員	<p>結局、事務局で出した案に基づいて、審議会で金額を決めるという考えか。</p>
事務局	<p>この案はあくまでも参考であり、額は今後、本審議会としてはいくらが適当として出したものを答申するという事。</p>

委員 AからDまでのプランそれぞれの年間の財政負担はいくらになるのか。

事務局 それぞれのプランの年間財政負担の見込額について説明がなされた。

会長 AからDまでの案をベースに、修正案も含めて次回までに意見をいただくことになるので、考えてきていただけるとありがたい。

(異議なしの声)

以上をもって第1回審議会を閉会する。

本日は貴重な意見を頂戴し、また、円滑な会議の進行に御理解・御協力を賜り感謝する。次回までに本日の資料内容を精査して、考えをまとめた上で御出席賜りたい。以上。